

はじめに

本報告書は、平成 26 年度に取り組んだ千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト「社会とつながる学校教育に関する研究(3)」(研究代表者：藤川大祐 千葉大学教育学部教授)の成果をまとめたものである。

私たちは、平成 23 年度、千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクトとして、「社会とつながる教員養成に関する実践的研究」に取り組んだ。ここでは、教員養成段階の学生を従来の学校文化に適応させることばかりが重視される状況を批判的にとらえ、学校と学校外の社会との両方を視野に入れ、社会の変化に対応した学校を支えられるような教員の養成がいかに可能であるかを、いくつかの実践的な取り組みを通して検討した。

平成 24 年度は、テーマをより広く「社会とつながる学校教育に関する研究」とし、学校と学校外の社会とをさまざまな形でつなげる取り組みを、広い視野をもって進めることとした。教員養成に直接関係する取組を進めながらも、私たち「授業実践開発研究室」が取り組む新たな授業プログラムの開発に関する成果を重ねてきた。

平成 25 年度は、前年度の研究を継続し、「社会とつながる学校教育に関する研究(2)」を掲げて研究を進めた。情報通信技術の発展をはじめとする社会の変化に対応してどのような授業実践が求められ、そうした実践を支える教員をどのように養成するかという問題意識のもと、ICTを活用した授業や教員養成の取り組み、さらには社会の変化に対応した学校安全やいじめ防止に関する取り組み等について研究を進めた。

そして、平成 26 年度は、これまでの研究をさらに発展させ、「社会とつながる学校教育に関する研究(3)」を掲げて研究を進めてきた。今年度、重点的に取り組んだテーマが、授業や教材と物語の関連の解明である。物語を取り入れた教材や授業の開発、リアリティとファンタジーとを往復しつつ物語が紡がれる実践の解明、そして新たな物語を構築する取り組みとしての異文化間交流学習や授業づくり、学級づくりの取り組みと、物語に関する検討を基盤とした多様な研究を進めることができた。

私たちは、変化が激しい社会の中でいかに教育を進めていくかという課題に直面している。この課題に向き合う中で、さまざまな立場の人の視点に立ちつつ、一見関係ない諸要素を関連づけてとらえることの重要性、すなわち物語を読み解いたり物語を構築したりすることの重要性が浮かび上がってきた。

本報告書は、私たちが試行錯誤を重ねて到達した中間地点からのご報告である。

千葉大学教育学部教授
藤川 大祐

